

テナガエビ (テナガエビ科)



学名 : *Macrobrachium nipponense*

別名 : カワエビ, ざざえび

大きさ : 体長 10 cm

特徴 : 成長するとオスは手が長くなる。体色は緑から灰色がかった褐色だが、稚エビでは半透明の体に不明瞭ながらも縞模様が入ることがある。小さなテナガエビはスジエビ (*Palaemon paucidens*) と似ているが(写真 1, 2), 眼の後ろの棘(肝上棘, かんじょうきょく)の有無で区別できる。スジエビにはその棘がない。また経験的には, 生時のスジエビの体表はかなり滑らかでつかみにくいことや, 眼がより外側に突出していること(写真 2)も本種との区別に有効と思われる。テナガエビはそれほどつるつるしていない。主に淡水域に分布するが, 幼生期に汽水域で成長し, その後淡水域に戻るものもいる。

国内の分布 : 本州, 四国, 九州

県内の分布 : 利根川水系, 牛久沼, 霞ヶ浦水系, 潤沼, 那珂川水系, 久慈川水系など

県内での生態 : 霞ヶ浦・北浦における抱卵期は 5 月下旬～9 月頃で, 盛期は 7～8 月。



写真 1 : スジエビの成体。体には縞模様がある。



写真 2 : 5 尾のテナガエビと 2 尾のスジエビ。スジエビは中央左向きのもとの一番下。テナガエビに比べて眼が横に出ていることがわかる。

ただし抱卵は水温の影響を受けるため 10 月や 11 月まで続くこともある。卵はふ化までメスの腹肢についている。ふ化した幼生

(ゾエア, 写真 3) は浮遊生活を送り, 8 回の脱皮を繰り返した後に底生生活を送るようになる(着底という)。飼育下における浮遊期間は水温約 24°C で 12~46 日。着底した稚エビは夜間に活発に活動・遊泳し, 水面近くにも現れる。とくに小さいエビほど底から離れて遊泳する。季節的には, 水温が高い 6~9 月は沖から岸近くまで分布するが, 水温が低下する 10 月以降は沖合の深所に主に分布するほか, 障害物に蝟集する傾向がある。漁業者によれば, 冬は特に泥底に多いという。

餌はユスリカ幼虫やイトミミズ, 動物プランクトン, 植物プランクトン, イサザアミ, 魚類, 昆虫, 植物組織片, 底泥堆積物, と多様であり, いわゆる“雑食性”。

備考: 霞ヶ浦・北浦の漁業者らは, 秋に獲れるその年生まれのエビを“ざざえび”と呼び, 佃煮の主原料としている。テナガエビは霞ヶ浦・北浦の重要な漁獲対象種であるが, その漁獲量は減少傾向にある。その要因には漁獲の影響もあるだろうが, 現在の湖が本種にとって良好とは言えない状況にあることもあげられる。例えば, 湖の底層において, テナガエビが斃死する危険が高まる溶存酸素量 3.0 mg / リットル未満の“貧酸素水塊”を調査で確認する確率が増している。2000 年以降急増したチャネルキョットフィッシュにもよく捕食されている。水生植物帯の減少という問題もある。漁獲量の回復は容易ではないが, 漁業者らはチャネルキョットフィッシュの駆除から資源を回復させる取り組みを進めている。

主な文献:

浜野龍夫 (1996) 川エビの生活と魚道—稚エビは夜



写真 3: テナガエビの幼生。顕微鏡写真。

- 中に海からあがってくる。多自然研究, 7: 5-9.
- 位田俊臣 (1978) 霞ヶ浦産テナガエビ資源の動態に関する研究—I 摂餌生態と消化管内容物. 茨城内水試調査研究報告, 15: 1-14.
- 位田俊臣 (1983) 霞ヶ浦産テナガエビの生態に関する研究—III 抱卵期などについて. 茨城内水試調査研究報告, 20: 36-42.
- 今井 正・秋山信彦・小坂昌也 (2001) テナガエビ 3 型幼生の生残可能な塩分. 水産増殖, 49: 35-40.
- Kubo, I. (1948) Oecological studies on the Japanese freshwater shrimp, *Palaemon nipponensis*. Bull. Jap. Soc. Fish. Sci., 15: 125-130.
- 根本 孝・中村 誠・川前政幸・庄司邦男 (1991) 筒型シェルターにおけるテナガエビの蝟集特性に関する研究. 茨城内水試調査研究報告, 27: 13-27.
- 大島展志 (1974) テナガエビ種苗の量産. 養殖, 1974 年 4 月号. pp. 65-67.
- 酒井光夫 (1986) 霞ヶ浦におけるテナガエビ資源に関する研究. 東京大学学位論文.
- 富永 敦 (2008) 霞ヶ浦におけるテナガエビの夜間遊泳行動. 茨城内水試研究報告, 41: 9-14.
- 富永 敦 (2008) 親テナガエビが生存可能な溶存酸素濃度. 茨城内水試研究報告, 41: 15-23.
- 山崎浩二 (2008) 淡水産エビ・カニハンドブック. 文一総合出版, 東京. 65 pp.